

鈴木敏恵さん(右)を講師に、新しいプロジェクト手法を学んだワークショップ



新居浜まちづくり

市民の視点からまちづくり策を提案し、実現を目指すこと、ワークショップ「にはまをよりよくしようノプロジェクト」が十七日、新居浜市庄内町四丁目のウイメンズプラザでスタートした。初回は、収集した情報を生かすプロジェクト手法などを専門家から学んだ。市制七十周年記念事業 勤オフィス（吉川貴士統として、まちづくり協 括責任者）と市が企画し

市民プロジェクト始動

高校生ら手法学ぶ 今秋10プラン提案

た。半年間で七回開催。受講者は約十のチームに分かれてまちづくりプランを作成、十一月には公開プレゼンテーションし、行政や企業、団体などの協力を得ながら提案を具体化させる。

初回は高校生を含む約八十人が参加。千葉大学教育学部特命教授で、一級建築士の鈴木敏恵さんが講師を務め、「ビジョン（願い）とゴールを明確に設定し、提案書を作成して他人に伝えることが大切」などとプロジェクト手法を紹介した。

実践事例では、西条市の丹原小学校五年生が鈴木さんの手法を活用して昨年、取り組んだ総合学習「朝から元気でいられるコトを提案します」の中から、みそ汁や卵料理の効果などを発表した。

同オフィスは「市民が主役となった提案を基に行政や企業、団体などに賛同の輪を広げ、協働のまちづくりにつなげていきたい」と話している。